

## 第5章

### 地域ケア個別会議における事例提供者の役割

葛原 千恵子

国立市健康福祉部地域包括ケア推進担当課長

長畑 達也

国分寺地域包括支援センターもとまちセンター長



## 第5章 地域ケア個別会議における事例提供者の役割

本科目の目標

- ・ 自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議の目的を事例提供者である介護支援専門員及び地域包括支援センター職員の立場から理解する
- ・ 自立支援に資するケアマネジメントが求められている背景やそれに伴うアセスメントの視点を理解する
- ・ 会議の事前準備～会議当日の場面～会議後における事例提供者としての役割について理解する

### 1 本養成研修における事例提供者の考え方

本養成研修における事例提供者は、要支援者の介護予防ケアプラン及びサービス事業対象者のケアプラン作成者である介護支援専門員及び地域包括支援センターの職員を想定しています。

また、事例提供者として介護サービス事業所を含めることも考えられます。支援チーム全体が事例提供者となることで、地域包括ケアシステムや自立支援に資するケアマネジメントの向上・深化につながっていきます。

### 2 事例提供者からみた自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議の目的の理解

#### (1) 包括的・継続的ケアマネジメント支援の一環として、環境整備の状況の確認

一つ目の目的は、包括的・継続的ケアマネジメント支援の一環として、自立支援に資するケアマネジメントの実践に必要な環境が整備されているか確認することです。

地域ケア個別会議は、事例提供者である介護支援専門員（地域包括支援センターの介護予防ケアプラン作成者を含む）と会議の主催者である行政、地域包括支援センターが会議を重ねていくことで、自立支援に資するケアマネジメントの実践に必要な環境について、双方向に確認できる機会といえます。例えば、以下のような内容を共有し、明確にしていきます。

- ・ 実践に必要な制度や施策による環境は整っているか？
- ・ 横断的な多職種（専門職）及び多機関連携に必要な環境は整っているか？
- ・ インフォーマルな社会資源など、情報共有に必要な環境は整っているか？
- ・ 個々の介護支援専門員、事業所レベルでの実践環境に限界はないか？

#### (2) 事例提供を通じた地域課題の明確化

二つ目の目的は、地域課題を検討し明確化することです。地域ケア会議を通じて地域課題を検討、共有するうえで、事例提供者として求められる役割を果たすことが重要です。事例提供者には、個別ケースの支援により得られた地域課題について提案、検討するなど、

より一層の役割が求められています。実際に、各区市町村において居宅介護支援事業所の介護支援専門員と地域包括支援センターで地域課題を共有、検討するための会議体や事例検討会等の機会が増えていると思われます。

事例提供者には、課題や情報を共有するための連携のあり方に課題はないか、地域に不足しているフォーマル・インフォーマルな社会資源はないかといった身近な気付きからの発言や提案が求められます。例えば、自立支援・介護予防に関する地域課題として、以下のような内容が挙げられます。

- ・ 民生委員との個別ケースを通じた見守り体制などの連携に課題はないか？
- ・ ボランティアに関する情報提供など社会福祉協議会との連携に課題はないか？
- ・ 区市町村の施策に関する要望は？
- ・ 地域の通いの場での専門職との連携に課題はないか？

### (3) 自立支援に資するケアマネジメント力の向上

三つ目の目的は、事例提供者自身の自立支援に資するケアマネジメント力の向上です。自立支援に資するケアマネジメントが、高齢者本人の意思、選択、持っている力（強み）、背景等「その人らしさ」を重視したケアマネジメントとなっているか、また、フォーマルサービスのみならず、高齢者本人の暮らす地域を理解し、そこに存在するインフォーマルサービス等の活用を重視したケアマネジメントとなっているか、再確認することが重要です。地域ケア個別会議を通じ、ICF（国際生活機能分類）のような総合的なアセスメントの重要性を再確認し、各専門職から助言を得ることが可能です。このように自立支援に資するケアマネジメントについて地域ケア個別会議を活用しながら確認していくことによって、個別ケースの支援力が向上し、高齢者本人のQOLの向上につながっていきます。

個別ケースの支援力向上は、要介護ケースへの視点、知識、技術等への応用につながります。また、地域包括支援センターの総合相談の場面での応用も可能です。自立支援に資するケアマネジメント力が向上することで地域包括支援センターの業務全体にも良い効果をもたらすと考えられます。

## 3 事例提供者からみた自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議の事前準備

### (1) 介護予防のための地域ケア会議の目的の確認

介護予防のための地域ケア会議の目的は、「要支援等の生活行為の課題の解決等、状態の改善に導き自立を促すこと」と「高齢者のQOLの向上」（厚生労働省『介護予防活動普及展開事業 市町村向け手引き (Ver.2) 』)です。各区市町村の事業計画等を参考にして、各区市町村が目指す方向性を確認することも大切です。

### (2) 事例の選定

地域の実情に合わせて選定します。また、会議を実施する各区市町村で選定方針が示さ

れている場合は、その内容に沿った事例を選定します。選定の例として、事例の詳細がわかっているものや現在の対象者の状態とサービス内容に相違のある事例等が挙げられます。

#### (3) 会議当日の流れ(タイムスケジュール)の理解

地域ケア個別会議の実施・運営形態は区市町村によって異なります。会議は限られた時間内で行われるため、事例提供者として、会議がどのような流れで進むか、事前に確認しておく必要があります。

#### (4) 会議に出席する助言者(各専門職)の役割の理解

どのような職種の方が会議に出席するかを確認し、各専門職の役割について理解しておくこと、事例選定やアセスメントの視点が見えてきます。

各専門職の役割については、第7章から第9章を参照してください。

#### (5) 検討事例のアセスメント

高齢者本人、家族、主治医、サービス事業者等の関係機関から必要に応じた再アセスメントをします。地域ケア個別会議に向けて、ケースの見立てを丁寧に行うことが重要です。その際、「その人らしさ」を活かした生活機能の視点で整理し、ICF やエコマップを活用することが有効です。

#### (6) 各種フォーマットの確認・記載

事例提出の承認や個人情報の取り扱いには留意します。会議の目的等を具体的に説明し、高齢者本人や家族への誓約書等により意思確認を行います。また、提出書類についてマスキングするなど、個人情報保護を徹底することが必要です。具体的な取り扱いについては、各区市町村の方針を確認します。

### 4 自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議当日の事例提供者の役割

#### (1) プレゼンテーション

高齢者本人の基本情報については、性別、年齢、自立度、住居、経済状況等から会議の参加者が高齢者本人の状況をイメージできるように説明します。

高齢者本人の生活行為の課題、現在の状態に至った個人因子・環境因子についてもわかりやすく説明します。これまでの生活状況については、特に状態が良かった時の状況も踏まえ課題を確認します。また、自立を阻害している課題とその背景となる高齢者本人の個人的要因及び環境的要因を整理します。目標についても本人の意向が伝わるよう具体的に説明します。

次にケアプランについて、高齢者本人の状態の改善の見込みとケアプランがどのように連動しているのかを説明します。さらに支援内容と方針について説明を加えます。

## (2) 質問・提案

高齢者本人の意向を踏まえた目標を常に再確認しながら、質問や提案を受けます。自立を阻害している課題に対して、専門性の視点からの提案を受け止めることで、今後のアセスメントに活かします。

## (3) まとめ

会議の時間内に、会議の中で出た論点を確認しておきます。参加者からの質問・提案を踏まえ、不足情報や自立支援に向けて取り組むべき点について整理、確認します。

## 5 自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議後の事例提供者の役割

### (1) 高齢者本人及び支援チームで共有

不足するアセスメントの情報を支援チームで共有し、支援方針について確認します。

### (2) 会議で抽出された内容をケアプランに反映

会議で抽出された内容をケアプランに反映します。その際、何に留意するか、モニタリング・評価をどのように実施するかについても検討します。

### (3) ケアプランに反映した結果、高齢者本人の状態変化の状況報告

ケアプランに反映した結果、高齢者本人の状態がどのように変化したかをモニタリングします。高齢者本人の状態変化の状況を報告することで、その支援内容が妥当であったか再度見直すことにつながります。どのようにモニタリングを行い、報告するかについては、各区市町村の取り扱いを確認します。

### (4) 地域課題の捉えなおし

まずは、既存のインフォーマルな社会資源やネットワーク体制の再確認をし、地域課題を捉えなおし把握するよう努めます。

### (5) 新たな社会資源の開発につなげることの意識化

捉えなおした地域課題を新たな社会資源の開発につなげることを意識します。新たな社会資源の開発は簡単にできるものではありません。身近なところに目を向けるなど日ごろから意識することが大切です。

## 6 自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議における事例提供者の役割のまとめ

このように、事例提供者は自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議において多くの役割を担っています。特に重要な点をまとめると、以下のとおりとなります。

- ・高齢者本人の強みや自己決定を尊重した自立支援に資するケアマネジメントやアセスメントの視点の再確認をします。
- ・軽度者の事例を検討することが中・重度者の支援につながる事を理解します。
- ・会議では、事例提供者だからこそ知りえる高齢者本人の状態（像）や地域の実情を伝え、助言者者（各種専門職）からの有効な意見を吸収し、ケアプランに活かします。また、支援チームとの共有を行います。
- ・個別ケースの検討が地域課題の抽出、新たな資源の開発にまでつながることを意識します。

事例提供者には、その役割を十分に理解し、自立支援・介護予防に向けた地域ケア個別会議に積極的に臨むことが求められています。

